

技術開発部報告書情報シート

記入年月日: 2009年4月2日

情報No.	K-09-1	情報区分	プラ処理協研究報告			
題名 報告書名	平成20年度使用済プラスチックのリサイクルに関する技術開発					
報告年月	2009年3月	ページ数	71	著者・出版元	プラ処理協	

【キーワード】

処理方式	ダイレクト成形、押出成形	要素技術	相溶化、安定フィード、シート
樹脂類別	積層樹脂	化学物質名	
形状別		用途別	
法規制		国別	日本

調査 研究 内容	<p>積層材料は食品の安全確保、長寿命化や容器の軽量化等、サステイナブル社会構築に大いに貢献しているが、混ざらない為これまで埋立・焼却処分しか出来なかった。食品等に触れる前の積層端材については再生原料として利用可能とする技術開発が望まれており、異種の樹脂を相溶化剤によって相溶化させる事で、積層樹脂フィルム端材のマテリアルリサイクルを可能とする技術開発に取り組むこととした。</p> <p>印刷工場等から排出される積層樹脂フィルムを、相溶化剤を用いて相溶化し再生原料として利用可能とし、更に経済性を持たせる為、破砕品をペレットを経由する事なしに直接押出機内で相溶化させ半製品であるシートを製造する技術開発に取り組んだ。</p>
調査 研究 結果	<p>積層樹脂フィルム端材のマテリアルリサイクルを可能とする事を目標に、工程を1工程省略し破砕品をペレットの経由無しにダイレクトにシート成形する相溶化技術開発に取り組んだ。目ヤニ発生等課題は残ったもののPE主体のPA/PET系積層品で目標通りの安定したシートを成形可能とするプロセスを構築する事が出来た。</p>
備考	<p>この事業は、(財)JKAの補助事業で実施しました。 (財)JKA補助事業広報資料(PDF)</p>